令和４（２０２２）年度事業報告

令和４年７月　１日から
令和５年６月３０日まで

１　事業の成果

○日本ＩＤＤＭネットワークの３つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成２２年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の３つの約束を掲げました。

そして、平成２３年度に開催した日本ＩＤＤＭネットワーク法人化１０周年・１型糖尿病研究基金設立５周年記念シンポジウム開催を機に、ゴールは、２０２５年に１型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にすることとしました。

さらに、平成２５年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして１型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、１型糖尿病の「根絶」と定義し、「根絶」を最終目標として掲げました。

また、創立２７年を経過し、その間に培ったノウハウを社会に還元し、自発的な市民社会の構築に寄与することを目指しています。

その約束を果たすための令和４年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジューＣグルコース及び１型糖尿病［ＩＤＤＭ］お役立ちマニュアル（特に全国の図書館、病院図書室、医学図書館、学校図書館へ）の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、メールマガジンの配信などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の５類感染症に移行に伴い一部対面イベントを再開しましたが、患者は重症化リスクが高いので、引き続き基本的な感染対策を呼びかけました。

ＡＩ（人工知能）を活用した相談対応システムは、ＣｈａｔＧＰＴの登場やさらに人材の投入、高額な運営コストが見込まれるため、事実上断念し、開発会社との詰めを行っています。

政策要望では①２０歳以上の１型糖尿病患者への医療費助成②介護施設などでの介護職員によるインスリン療法の実施③インスリンポンプおよび持続血糖測定器に係る診療報酬の改善④学校などの教職員等及び救急救命士による重症低血糖対応⑤特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の申請窓口の一元化についての要望書を厚生労働省、文部科学省及び内閣府特命担当大臣宛に提出しました。

また、新たに、製薬企業・医療機器関連企業からの患者・家族に向けた情報提供の規制緩和についての要望を次年度に行うべく準備中です。
発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等）を詰めた「希望のバッグ」（平成２６年１１月配布開始）プロジェクトは、スポンサー企業の皆様のおかげで好評のまま継続することができました。１型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員（１０００人を見込）に届けることができるよう今後とも重点事業として取り組んで行きます。
加えて、インスリン補充が必要な２型糖尿病患者のための希望のバッグ（平成２９年１２月配布開始）の送付もスポンサー企業の皆様のご支援により継続することができました。
当法人が２０年以上に渡って蓄積してきた１型糖尿病に関するノウハウを活かし、２型糖尿病患者・家族のみなさんに、インスリン治療に対する不安をやわらげ、希望をもって生活してほしいという想いから「２型糖尿病との向き合い方セミナー」と題したオンラインイベントを「にちあい糖尿病川柳」（応募総数２２８０作品）の優秀作品発表を兼ねて開催するなど、糖尿病の早期診断と治療継続の大切さを啓発しました。
認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンのご協力を得て“低血糖アラート犬”養成に取り組み、３頭（アニモ、アロエ、エフィー）の訓練を継続しました。しかしながら、成果は未だに十分とは言えずトレーニングを継続していきます。
インスリン補充をしている方の「もしも」に備えるためのノートを作成し、このノートの書き方や使い方についてのセミナーを開催しました。終活、災害、入院時にも活用できる内容を伝え、備えることへの意識を高めました。
１型糖尿病患者・家族にインスリン療法にかかわる医療費や社会保障制度等を正しく理解してもらうため、１型糖尿病の医療費相談会を開催しました。久しぶりに対面方式で開催し、当法人の政策要望活動、研究支援、持病があっても入れる保険、最近の治療の情報など、参加者の関心や悩みに寄り添うことができ満足度の高い相談会となりました。
医療者の方々から、実際の１型糖尿病患者の症例について他の医療機関ではどのように対応しているのか知りたいとの声をいただき「医療者向け１型糖尿病の症例対応セミナー」を２回（①ＣＧＭ［持続グルコースモニタリング］＆低血糖②ＣＳＩＩ［インスリンポンプ］＆成人移行期医療）開催しました。最新機器の話に留まらず、論文などのエビデンスに基づいた日々の診療での工夫や低血糖の対策などの情報が紹介され、好評をいただきました。
動画では、１型糖尿病患者でもある柚山賀彦医師のご協力を得て、糖尿病の正しい理解、救命救急士に向けた糖尿病の対処法、及び小中学校の先生に向けた糖尿病をもつ児童との関わり方の３本の作成に着手しました。
加えて、糖尿病には様々なタイプ（１型糖尿病、２型糖尿病、その他の特定の機序・疾患によるもの、妊娠糖尿病）があることを社会啓発する動画の作成にも取り組んでいます。
こうした動画により、社会における糖尿病に関する正しい認知や患者・家族自身が日常（就職、入園・入学等）の説明が容易にできるようになります。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、患者・家族が対面で話せるイベントの中止・延期や発症したばかりの患者・家族が他の患者・家族と接する機会が少ないこと等から、「#にちあいしゃべり場～患者・家族の“話せる”オンラインコミュニティ～」を５回開催しました。それぞれの社会や家庭での環境、発症年齢などで直面している課題が異なるため、年齢別、患者・家族別等タイプ別に開催し、顔を見ながらコミュニケーションを取ることが「心の安定につながる」といった高い評価を得ました。

高齢患者支援サービス（独居の高齢糖尿病患者健康支援サービス）は公益財団法人三菱財団様の助成が決定し、次年度に本格的な準備に着手します。

○“つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント＆先進デバイス活用セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン（ＷＥＢ形式）で４回（初心者向け、経験者向け、医療従事者向けに区分）開催しました。参加者には引き続き好評で、全国各地から多くの医療関係者にも参加いただき、カーボカウントや先進デバイスの啓発に繋がりました。さらに、１型糖尿病の医師に自身の経験を交えて話していただき、患者の実体験や必要な医療・療養がより感じられるセミナーとなりました。カーボカウント講座の動画「1型糖尿病 初級編」「1型糖尿病 応用編」及び「２型糖尿病編」も販売することで、医療・療養環境の充実につながっています。

当法人に「今後取り上げてほしいテーマ」で最も関心が高い「１型糖尿病と妊娠・出産」について、助産師、糖尿病専門医及び１型糖尿病をもつお母さんをお迎えし、「パートナー・医療者にも聞いてほしい！１型糖尿病の妊娠・出産セミナー」を国際女性デー（３月８日）に開催しました。出産を経験した１型糖尿病患者２名の体験談もあり、これから出産を迎えたり、サポートしたりする方の不安を軽減する貴重な機会となりました。

ＩＤＤＭ白書（１型糖尿病 ＩＤＤＭレポート２０２２）の発行に加え、各種メディアでも取り上げていただき、１型糖尿病の認知度がさらに向上したと認識しています。

新たな寄付の形として、ＤＭ三井製糖ホールディングス株式会社様は2019年から株主優待制度として自社製品等に代えて日本ＩＤＤＭネットワークへの寄付を選択いただける「寄付優待制度」を導入され、この制度を通じて２３９名の株主様より741,000円の寄付を頂戴しました。

コロナ禍で心身ともに疲弊されている看護職の方々に対し、本年度も日本における新型コロナ対応の要である国立国際医療研究センター（東京都）と九州における対応拠点である福岡大学（福岡県福岡市）の看護職の方々３４７名へ佐賀の特産物を贈りました。「昼夜を問わず医療の前線で業務に当たっている職員にとって大きな励みになります」といった感謝の言葉が届きました。

○“解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、１型糖尿病の根治への道を開きます。

１型糖尿病の根絶につながるあらゆる先進的な研究を応援する「１型糖尿病

研究基金」による公募型の１７回研究費助成は、特にゲノム医療に関連する研究、基礎研究、そして若手研究者の方々からのチャレンジングな研究に期待して、５テーマに対し７９６万円の助成を行いました。この助成金には、冠基金「由地敏廣エンジョイ！基金」並びにグローバル全生物ゲノム株式ファンド（通称「ゲノムファンド」、日興アセットマネジメント株式会社様が運用会社となり、ゲノム関連企業の株式への投資によるリターンをファンド受益者にもたらす公募投資信託）の運用会社や販売会社が受け取る運用管理費用の一部を「ゲノムファンド活用プログラム２０２２」として当法人に寄付されたものを活用しました。

佐賀県庁への日本ＩＤＤＭネットワーク指定ふるさと納税を財源として、５テーマで６８００万円の研究費助成を行いました。

資金循環型（研究成果が出た場合は１型糖尿病研究基金へ資金をリターン）の研究支援は、３テーマで継続支援を行いました。

このほか、随時募集（公募）による助成、継続助成を含め、本年度は２３件１億３５３６万円（過去最高）の助成を行いました。

これにより累計では、助成件数１４３件、支援金額７億３７３６万円となりました。

１型糖尿病の根治、治療、予防に向けた研究がさらに進むことを期待しています。

２０２５年には１型糖尿病が“治る”病気になるという期待感は高まっており、「バイオ人工膵島移植ジャパンプロトコール２０２５基金」（目標：５億円）は、「移植サポーター」（１口１，０００円を毎月口座から自動的に引き落とし）も呼びかけ、２０２３年６月末時点で111,799,000円となりました。

このうち、国立国際医療研究センターへご遺産による冠基金「金岩信一基金」（７０００万円）から研究助成金（３８５０万円）を贈呈しました。

『1型糖尿病　２０２５年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本ＩＤＤＭネットワークサイエンスフォーラムは、４年ぶりに対面方式で２０２３年６月に開催しました。参加者は、様々な糖尿病の患者・家族によるパネルディスカッションでは発症当時や病気のある生活への不安・困りごとに共感し、研究者による発表では着実に進捗を見せる研究に希望や期待を持っていました。

１型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族との接点を増やすことで、「治る」病気になることへの期待感や研究者のモチベーションは高まっています。

なお、これまで研究助成を行った研究機関へ患者・家族が出向き研究の状況を発信する「研究室訪問」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で依然として再開できませんでした。

１型糖尿病“根絶”のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人としての利点をいかすために様々なメニュー（基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム “冠基金”、株式会社シャトレーゼ様等による販売額の一定割合を寄付する寄付つき商品、家庭や職場で不要になった本を提供していただく“ノーモア注射希望の本プロジェクト”、書き損じ・未使用のはがきを提供していただく“書き損じはがきプロジェクト”、家庭に

眠っている貴金属、アクセサリー等を提供していただく“お宝エイド”、売上の一部が寄付になる“希望の自動販売機プロジェクト”等）を用意して寄付のお願いをしました。物品やイベント収入の一部の寄付など患者・家族による自発的なチャリティ活動も続いています。

１型糖尿病の啓発にも繋がる“希望の募金箱”プロジェクトは、本年度１４か所（累計２４か所）で専用の募金箱を設置していただきました。

こうした多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の１型糖尿病研究金には110,323,053円（佐賀県庁へのふるさと納税を除く）がよせられました（前年度８％増）。

様々な寄付メニューの中でも、ノーモア注射マンスリーサポーター（１口１，０００円を毎月口座から自動的に引き落とし）は、「マンスリーサポーター募集キャンペーン（２０２３年３月２７日～５月８日）」にも取り組み、期間中６２名もの方々に申込いただき、６８０名１５８６口となりました。

患者・家族の遺産を託され２つの冠基金「林文子基金」、「武居正郎基金」を創設しました。研究支援を中心に活用いたします。

バレンタインデーとホワイトデーに合わせて砂糖不使用で低ＧＩの「ドクターズチョコレート」（販売元：株式会社マザーレンカ様）の売上の１％を１型糖尿病研究基金へ寄付するキャンペーンを２０２３年２月１３日から３月３１日まで、大賀薬局様（１０２店舗）、阪神調剤グループ・Ｉ＆Ｈ株式会社様（１２３店舗）及びアポクリート株式会社様（３３店舗）のご協力により実施いたしました。

ソフトバンク株式会社様には「つながる募金」（スマートフォン等から簡単に寄付ができるサービス）並びに「チャリティモバイル」（専用ＷＥＢから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円＋毎月の利用料金の３％を当法人へ２年間に寄付）でご支援をいただいておりますが、期待に応えられる実績はあがっていません。

ヤフー株式会社様には、Yahoo!ネット募金でご協力をいただき、６月末の累計で約２９３００名の方々から約８５０万円の寄付を頂戴しています。

佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」（株式会社トラストバンク運営）のご協力で、本年度で９年目となる「日本ＩＤＤＭネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税（寄付）は、令和４年度（佐賀県庁の会計年度：４月－３月）は２３９２件、136,551,365円、高額寄付の増加により前年度金額比５１％増（過去最高額）となりました。令和５年度（同４月－３月）も、高額寄付の増加により６月末現在で３０３件、22,211,000円の指定寄付を頂戴しており、寄付額は前年同期比９７％増となっています。しかしながら、４月から佐賀県庁は指定団体への交付率を寄付額の９０％から８５％へと変更しており、当法人へ寄付（交付）される金額は減収の見込みです。なお、本ふるさと納税は主に研究費助成のために活用します。

特に「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディング（使途を明確にしたふるさと納税型クラウドファンディング）では、根治に一番近いと期待するバイオ人工膵島移植(膵島補充療法)実現に向けて「インスリン離脱ができる異種膵島移植法の確立と産業化に向けた生産システムの構築」のために浅利貞毅神戸大学大学院医学研究科特命教授へ１３００万円、「First in Human＝ヒトに初めて投与する段階の治験を開始するために実験データをもとに治験

実施計画書を作成し実行」のために霜田雅之国立国際医療研究センター膵島移植企業連携プロジェクト長へ１０５０万円、さらに「からだの中に残された膵β細胞を再び増やす研究」のために白川純群馬大学生体調節研究所代謝疾患医科学分野教授へ２４００万円の研究費助成を実現することができました。この他、ふるさと納税を財源として、「FreeStyle リブレ第３世代アルゴリズムの精度評価」のために村田敬国立病院機構京都医療センター臨床栄養科長・糖尿病センター医長へ５０万円、「ウイルス糖尿病予防コクサッキーB ウイルスワクチン開発へ向けた基盤的研究とその展開」のために永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授へ２０００万円の研究費助成を実現することができました。

今後の研究進展に益々期待しています。

ふるさと納税にあたっては、たくさんの応援メッセージを頂戴しています。1 型糖尿病のことをご存知無い方々からの寄付も多く、この研究支援寄付が１型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。令和５年２月からは、京都大学ｉPS 細胞研究所長船健二教授グループの「ヒトｉＰＳ細胞から次世代型スマート膵島をつくる」研究を支援するために「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディングに取り組んでいます。

第１１回大阪マラソンのチャリティ寄付先団体に選ばれ、１２名のチャリティランナーの方々に大阪の街を駆け抜けていただきました。チャリティランナーの皆様が当法人への寄付を呼びかけられ、２５７人の方々から、1,173,990 円ものご寄付をいただきました。加えて、大阪マラソン組織委員会様から 1,664,414 円の寄付をいただいています。いただいたご寄付は、１型糖尿病の根絶に挑戦する研究者の方々への研究費助成に活用します。

東京マラソン２０２４（2024 年 3 月 3 日開催）チャリティの寄付先団体に選ばれました。１型糖尿病の正しい理解を広げるため、治る未来の実現に向けて、寄付はバイオ人工膵島移植プロジェクト（膵島補充療法）の研究費助成として活用する予定です。アンバサダーとして岩田稔氏（元プロ野球阪神タイガース投手）に就任いただきました。

平成２３年１月に発足した『１型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する１００人委員会』の委員は１４０人となりました（本年度３名就任）。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学ｉＰＳ細胞研究所名誉所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授の坂口志文氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『１型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する希望の１００社委員会』は２３企業・団体（本年度１社就任）で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

２０２２年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による対面イベントの中止・延期等により、厳しい状況にありましたが、様々なご支援と職員の頑張りにより何とか乗り越えることができました。

新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後、対面型イベントを再開し、次年度も、研究支援強化や高齢患者支援サービスの構築等、常に改善を意識して新たなチャレンジも続けます。

また、日本ＩＤＤＭネットワークは平成１２年に佐賀県に本部を移転した団体として、地元佐賀県へ貢献することを目指しています。
ふるさと納税を財源として、県内の５団体で「佐賀の未来につながるＣＳＯ（市民社会組織）交流会」を共催し、ゲストの山口祥義知事の前で当法人の活動もアピールし、１型糖尿病の啓発にも寄与しました。
新たに佐賀県の「企業版ふるさと納税活用型ＣＳＯ地域課題解決支援事業」に挑戦することとし、佐賀県の①成人の１型糖尿病患者への医療費助成②糖尿病患者の歩くライフスタイルの推進及び③佐賀大学の糖尿病ワクチン開発支援を実施すべく申請しました。
次年度以降も、本部所在地である佐賀県への貢献を意識して取り組みます。

管理運営面では、年々業務を拡大・充実させており、井上龍夫理事長は体調面から以前のような状態での業務は困難ですが、２０００年に法人化とともに本部を佐賀市に移転して以降事務局を担ってきた岩永幸三副理事長兼事務局長が４月１日付で常勤有給役員（共同代表）となり、後任の事務局長には佐賀県庁で難病対策や障害福祉の担当課長を務めた森満が就任しました。事務局は、有給職員１２名（フルタイム職員２名、短時間職員１０名、うち８名は在宅勤務）及び外部委託（２社に委託）による体制としています。
在宅ワーク職員とのコミュニケーション強化という課題を抱え、チームビルディングを図る研修や佐賀市の本部事務所勤務への移行を進める等、役職員体制の強化は一旦終了しました。しかしながら、職員の給与水準は十分とは言えません。よって、米国ドル建て債券の購入による資金運用強化により人件費を捻出することとしています。
このような状況下で、今年度も延４５名のボランティアの方々に助けられました。
なお、本部事務所（佐賀市柳町）の異臭事案（２０２２年３月９日発生）により、緊急避難としてＴＯＪＩＮ館（佐賀市唐人）に仮移転していましたが、１０月１日に新事務所（佐賀市八戸）に移転しました。

日本ＩＤＤＭネットワーク全体としては、高額な遺産の寄付をいただき、収入規模は２年連続２億円を超え、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪は広がり、期待も高まっています。
サービス向上、研究支援の加速、財源確保のすべてを成り立たせるために来年度も尽力します。

2 事業実　　施に関する事項

（1）継続的な非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額（千円）
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	40
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会の活性化のために下記の団体に助成金2万円交付した。 ・広島「もみじの会」：会員家族のつどい（会員家族が3家族以上集う場合に助成） ・やまびこの会：山梨小児糖尿病ミニキャンプ	11月4日 11月7日	佐賀市	3人	117人	
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。 ・つぼみの会 愛知 岐阜：令和4年度1型糖尿病患児の療養および学校との連携についての教職員向け研修会 ・つぼみの会三重：2022年度「1型糖尿病 先生方と患者・家族との研修会」 ・岡山小児糖尿病協会（岡山つぼみの会）：1回 1型糖尿病患児の療養及び学校との連携についての研修会	7月27日 8月9日 8月20日	佐賀市	2人	183人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	11,899
情報収集提供・政策提言	○発症初期1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだバッグ「希望のバッグ」を、配布した。 ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってもらいたいこと」 ・療養に必要な機器やインスリン製剤一覧 ・祖父母向けパンフレット ・学校 幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・注射器や測血糖器を入れるポーチ ほか	通年	安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	2500人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」を、配布した ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医がわかりやすく解説した療養の細リンパ子インスリン注射が必要となっている2型糖尿病患者さんへ」 ・療養に必要な機器やインスリン製剤一覧 ・祖父母向けパンフレット ・学校への説明用パンフレット 注射器血糖測定器を入れるポ ほか	通年	安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	325人	
情報収集提供・政策提言	○以下の政策実現に向けて、所管大臣への要望や関係者との意見交換等を行った。 ・20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成 ・介護施設などでの介護職員によるインスリン療法の実施 ・インスリンポンプおよび持続血糖測定器に係る診療報酬の改善 ・学校などの教職員等及び救命士による重症低血糖対応 ・難病 重症扶養手当と小児慢性疾病の申請窓口の一元化 ・製薬企業・医療機器関連企業からの患者・家族に向けた情報提供の規制緩和	通年	安城市 佐賀市 大津町 ほか	4人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○1型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを000部増刷し、患者家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	7人	9万人	
情報収集提供・政策提言	○学校、幼稚園、保育園の説明用パンフレット「学校、幼稚園、保育園、認定こども園の先生のための1型糖尿病対応マニュアル」を000部増刷し、患者家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	7人	9万人	
情報収集提供・政策提言	○2型糖尿病患者の祖父母向けパンフレットを6,000部増刷し、家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	7人	2万人	
情報収集提供・政策提言	○教師のための2型糖尿病対応マニュアルを8,000部増刷し、患者・家族等へ配布した	通年	佐賀市 ほか	7人	2万人	
情報収集提供・政策提言	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖（グルコース）を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ブドウ糖（グルコース）」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	3人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○オウンドメディア『PRESS IDDM』で糖尿病に関する情報発信を行った。	通年	熊本市 ほか	2人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○Twitterで1型糖尿病に関する情報発信を237,48万人（前年度比14%増）のリーチがあった。	通年	船橋市 熊本市 大津町 糸満市 ほか	10人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を8,439人（前年度比51%増）のリーチがあった。	通年	船橋市 熊本市 大津町 糸満市 ほか	10人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○Instagramで1型糖尿病に関する情報発信を8,815人（前年度比8%減）のリーチがあった。	通年	船橋市 熊本市 大津町 糸満市 ほか	10人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント講座の動画教材3種類（①1型糖尿病 初級編②糖尿病 応用編③2型糖尿病編）を販売した。 講師：川村慶のメディカルクリニック院長	通年	福岡市 熊本市 大津町	3人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○社会保障制度の動画コンテンツ2種類 ①「インスリン療法をおこなう患者・家族のための社会保障制度講座～運転免許編～講師：多田祐子社会保険労務士、瀬口敬弁護士） ②「インスリン療法をおこなう患者・家族のための社会保障制度講座～児童扶養手当・障害年金編～」（多田祐子社会保険労務士） を販売した。	通年	佐賀市 熊本市 ほか	5人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○「#にちあいしゃべり場～患者家族の"話せる"オンラインコミュニティ」を患者家族、年齢別に5回開催した。	通年	船橋市 大津町 ほか	8人	25人	
情報収集提供・政策提言	○日本糖尿病教育・看護学会学術集会、日本移植学会総会及び日本糖尿病学会年次学術集会で情報収集・発信を行った。	通年	名古屋市 鹿児島市 ほか	4人	60万人	
情報収集提供・政策提言	○医療者向け1型糖尿病の症例対応セミナーをオンラインで2回（①CGM低血糖②CSII&移行期医療）開催した。	8月2日 9月3日	安城市 佐賀市 熊本市 大津町 ほか	11人	63人 53人	

2 事業実 施に関す る事項

（1） 特定非営利活 動に係 る事業

事 業 名	事 業 内 容	実 時期	実 施場所	従事者の人数	受 益対 象の範囲及び人数	支出額（千円）
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病を持つ私の挑戦」と題した写真とイラストの募集を行い、IDDMレポ ート2022に掲載した。	8月～1 1月	船橋市 福岡市 熊本市	3人	60万人	
情報収集提供・政 策提言	○「カーボカウント&先進デバイス活用セミナー」をオンラインで4回（①はじめての方向け②医療関係者向け※基礎編③理解を深めたい方向け④医療関係者向け※臨床編）開催した。	10月29日 11月9日 12月10日 2月8日	船橋市 安城市 佐賀市 熊本市 大 津町 ほか	12人	54人 43人 62人 60人	
情報収集提供・政 策提言	○ 型糖尿病 に関する セミ ナーをオンラインで2回（①2型糖尿病を持つ方のための糖尿病との向き合い方セミナー②2型糖尿病との向き合い方セミナー＃にちあい糖尿病川柳）開催した。	11月26日 5月20日	安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大 津町 ほか	13人	186人 993人	
情報収集提供・政 策提言	○「1型糖尿病I DDMレポ ート2022を9，000部作成し、ホームページでも公 開した。	11月	安城市 福岡市 佐賀市 大 津町 ほか	11人	60万人	
情報収集提供・政 策提言	○株式 会社 SHAREEAにる クラウドファンディング「#クリスマスにケーキを 1型糖尿病の子どもたちへ年一回のプ レゼント」に協 力し、1型糖尿病患児１００組に超低糖質クリスマスケ ーキを届けた。	10月～12月	福 岡市 ほか	2人	300人	
情報収集提供・政 策提言	○YouTubeチャンネルにて専門職の方に向けた動画「YouTubeで学ぶ1型糖尿病」シリーズ（まずは①糖尿病の話②救急救命士に向けた糖尿病の対処法③小中学校の先生に向けた糖尿病をもつ児童との関わり方）の作成に着手した。	1月～	安城市 佐賀市 熊本市 大津町	5人	60万人	
情報収集提供・政 策提言	○パート ナー医療者にも聞いてほしい！1型糖尿病の妊娠・出産セミ ナーをオンラインで 開催した。	3月8日	船橋市 安城市 佐賀市 熊本市 大津町 ほか	10人	129人	
情報収集提供・政策提言	○エムベクタ合同 会社 当他型糖尿病をもつ中高生を対 象としたキャリア教育プログラム「Disc overYourse lf」に協 力した。	4月4日	東京都	3人	1 6人	
情報収集提供・政 策提言	○「1型糖尿病の医療費相談会」を開催した。	5月27日	東京都	12人	23人	
情報収集提供・政 策提言	○日本IDDMネットワーク活 動紹介チラシ「1型糖尿病の子ども達に"治る"未来を贈りたい！」を10，000部増刷し、患者・家族等へ配布した。	6月	佐賀市 熊本市	3人	60万人	
調査研究					患者及び その家族等	960
調査研究	○認定特定非営利活動法人ピースウ ィンズ・ジャパンと協 働し低血糖アラート犬3頭の養成を行った。 その資金源確保及び啓発のために、低血糖アラート 犬チ ャリティTシャツの販売を行った。	通年	佐賀市 大 津町 ほか	4人	60万人	
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要な情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマ ニュアル」 Part1～Part5（ 別を含む6種類）を配布・販売した。	通年	佐賀市 ほか	6人	60万人	
調査研究	○経済的事由で大学への進学が困難となっている1型糖尿病患者が、1型糖尿病根絶のために研究者、医療者を目指すことを応援するための「1型糖尿病根絶奨学基金」による給付型奨学金（返還不要）の募集を行ったが、応募者は無かった。	通年	横浜市 佐賀市 大津町 ほか	5人	60万人	
調査研究	○社会的課題の解決という夢の実現に向けて努 力している1型糖尿病患者を応援するため「1型糖尿病患者起業支援基金」による起業支援募集を行い、2件の応募があったが選択者は無かった。	通年	安城市 佐賀市 大 津町	4人	60万人	
調査研究	○鬼丸昌也ナチュラル・ リーダーシップ研究所所長によ るファンドレイジング及 びチームビルデ ィングを図る役職員研修を開始した。	4月～	佐賀市 ほか	15人	60万人	
調査研究	○以下の調査・研究等 協力を行った。 ・1型糖尿病の子どもたち（ 0～15歳の 保育園、幼稚園、学校での受入状況（ 名古屋テレビ） ・スタンフ ォード大学が開発した「セルフ マネジメントプログラム」の普及（ 特定非営利活 動法日本慢性疾患セルフ マネジメン協 会） ・広報発信の戦略策 定（公 益社 団法人グローバルヘルス技術振興基金Gl obaHea lthInnova tivēec hnology Fund） ・認 定特非営利活 動法人の活 動状況に関するアンケート調査（ 内閣府） ・NPO法人等の孤独・孤立対 策に資する活 動について（ 内閣官房孤独・孤立対 策室）	通年	佐賀市 ほか	4人	60万人	
関係 団体との連携					患者及び その家族等	190
関係団体との連携	○新型コ ロナウイルスによ る医療崩壊を防ぐためのご寄付を財源として、日本における新型コロナ対応の要である「国立国際医療研究センター」と九州における新型コロナ対応の拠点「福岡大学」の看護職の方々へ佐賀の特産物を贈った。	3月	東京都 福岡市	3人	60万人	
普及 啓発					患者及び その家族等	1,814
普及 啓発	○「僕はまだがんばれる－"不治の病"1型糖尿病患者、大 村詠一の挑戦－」（ じ伝めてい出版）の全 国の図書館への配 及販売を行った。	通年	全 国各地	5人	60万人	
普及 啓発	○1型糖尿病 患者・家族等 に必要な情報を網羅した「1型糖尿病[I DDM]お役立ちマ ニュアル」（Part1を除く）を全国の図書館、学校図書館、病院図 書室、医学図 書館、札幌市教育委員 会等に寄贈した。秋元克広札幌市長からは感謝状が贈 られた。	通年	全 国各地	7人	60万人	
普及 啓発	○ベネッセコーポ レーション（ Benesが運営するメデ ィアだまひよ こ【1型糖尿病を知る】と題して、笹原加奈子事務局職員の体験談が紹介された。 ①生涯、毎日注射が必要になった息子。「どうして…」と母は泣いた ②「うつる病気」「食べ過ぎが影響」など間違った理解や偏見がまだまだ 多い病気。息子のために立ち向かう 決意をした母	8月12日	船橋市 ほか	2人	60万人	
普及 啓発	○インターネット放送、ABEMA Primeの「1型糖尿病とは？当事者と考える」に大村詠一専務理事が出演した。	8月29日	大 津町	1 人	60万人	
普及 啓発	○公 益財 団法人ルモ生命科学振興財団の助成金により、様々なタイプの糖尿病を紹介す る啓発動画の準備に着手した。	2月～	安城市 佐賀市 熊本市 大津町	5人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
療育相談					患者及びその家族等	1048
療育相談	○高齢患者支援サービス構築に向けて検討を重ねた。独居の高齢糖尿病患者健康支援サービスは公益財団法人三菱財団の助成が決定し、次年度から本格的な準備に移行する。	通年	佐賀市 熊本市 大津町 ほか	7人	60万人	
療育相談	○電子メール(258件)、SNS(23件)、面談(8件)、相談電話(212件)、ホームページ(617, 676件)等を通して、様々な相談等に対応した	通年	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 和水町 ほか	8人	60万人	
会報発行					患者及びその家族等	673
会報発行	○会員等への情報提供として、メールマガジンを配信した。	7月15日 8月24日 9月16日 10月14日 11月13日 12月6日 1月4日 2月4日 3月11日 4月7日 5月18日	船橋市 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町 ほか	11人	60万人	
会報発行	○会員等への情報提供として活動報告レポートを8, 000部発行、送付した。	6月	安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	6人	60万人	
中間支援					患者及びその家族等	100
中間支援	○1型糖尿病啓発も兼ねて公益財団法人佐賀未来創造基金等と「佐賀の未来につながるCSO交流会」を共催した。	11月22日	佐賀市	3人	82人	
中間支援	○合同会社めぐる主催の凸と凹「マンスリーサポートプログラム」第12回集合研修で岩永幸三副理事長兼事務局長が「佐賀県におけるふるさと納税(NPO等の支援)の取り組み」について講義を行った。	11月25日	佐賀市	1人	25人	
中間支援	○韓国からの視察団(地方自治体、大学、マスコミ等)に対し、岩永幸三理事長(共同代表)が佐賀県における日本IDDMネットワークのふるさと納税の取り組み等について説明した。	6月9日	佐賀市	2人	10人	

2 事業実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成					患者及び その家族等	135,360
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として下記の研究に資金提供を行った。 ・人工知能による1型糖尿病療養のデジタルトランスフォーメーション 研究代表者:富永洋之京都府立医科大学附属病院内分泌・糖尿病・代謝内科大学院生 研究資金:200万円(100万円を2回) ・マウス血漿中に存在するβ細胞特異的ペプチドの同定-β細胞死の定量化に向けて- 研究代表者:宮塚健北里大学医学部内分泌代謝内科学教授 研究資金:350万円 ・レプチン受容体シグナルを介した1型糖尿病の新規治療開発 研究代表者:坂野僚一名古屋大学総合保健体育科学センター准教授、伊藤禎浩名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科客員研究者 研究資金:200万円	9月26日 11月21日 6月16日 6月23日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	9人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」において通年での研究助成課題募集(随時公募)を行い、下記研究に助成を行った。 ・ブタ膵島を用いたバイオ人工膵島臨床実用化に向けた前臨床試験 研究代表者:霜田雅之国立国際医療研究センター膵島移植企業連携プロジェクトプロジェクト長 助成額:3850万円(「金岩信一基金」活用) ・免疫抑制剤を必要としない新ブタ膵島による移植療法開発を行うための予備検討 研究代表者:矢部茂治国立国際医療研究センター細胞組織再生医学研究部上級研究員 助成額: 20万円	10月27日 3月31日	安城市 佐賀市 ほか	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、下記研究に助成を行った。 ・FreeStyleリブレ第世代アルゴリズムの精度評価 研究代表者:村田敬国立病院機構京都医療センター臨床研究部長・糖尿病センター医長 助成額: 50万円 ・First in Human=ヒトに初めて投与する段階の治験を開始するために、実験データをもとに治験実施計画書を作成し実行する。 研究代表者:霜田雅之国立国際医療研究センター膵島移植企業連携プロジェクト長 助成額:1050万円 ・インスリン離脱ができる異種膵島移植法の確立と産業化に向けた生産システムの構築 研究代表者:澤利貞教神戸大学大学院医学研究科特命教授 助成額:1300万円 ・からだの中に残された膵β細胞を再び増やす研究 研究代表者:白神睦群馬大学生体調節研究所代謝疾患医科学分野教授 助成額: 2400万円 ・ウイルス糖尿病予防コクサッキーBウイルスワクチン開発へ向けた基盤的研究とその展開 研究代表者:永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授 助成額:2000万円	11月21日 1月13日 3月3日 6月16日	安城市 佐賀市 ほか	8人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」助成課題の中で継続支援を希望された中から下記の6件へ助成を行った。 ・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症・抑制機序の解明 研究代表者 宮寺浩子筑波大学医学医療系助教 助成額: 70万円 ・Diabetes Cureに向けたβ細胞新生の効率化および低侵襲化 研究代表者:宮塚健北里大学医学部内分泌代謝内科学教授 助成額:500万円 ・1型糖尿病に対するIL-7R標的Antibody-drug conjugate(ADC)の開発 研究代表者 森正浩国立がん研究センター先端医療開発センター新薬開発分野分野長 助成額:100万円 ・自己反応性T細胞を標的とした1型糖尿病発症予防法の開発 研究代表者:岡村拓郎京都府立医科大学内分泌代謝内科博学研究員 助成額:100万円 ・移植膵島量の非侵襲的縦断的評価に基づく、移植膵島増殖・保護法の開発 研究代表者:村上隆亮京都大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・栄養内科助教 助成額: 200万円 ・血糖値の変動に応じた機能的インスリン分泌を可能とするAAVベクターの構築と1型糖尿病モデルに対する治療効果の検証-1型糖尿病の根治を目指して- 研究代表者:菅澤威仁筑波大学医学医療系スポーツ医学研究室助教 助成額:100万円(「Sky基金」の活用)	1月13日 4月18日 6月5日 6月23日 6月27日	安城市 佐賀市 ほか	8人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○Yahoo!ネット募金による寄付金を財源として、下記研究に助成を行った。 ・マクロカプセル化膵島による1型糖尿病治療の研究 研究代表者:祝迫惠子同志社大学病態解析研究センター長、角昭一郎同志社大学病態解析研究センター嘱託研究員 助成金:250万円	3月14日	安城市 佐賀市 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第17回研究助成課題の公募を行い、9件の応募の中から下記の5件へ助成を行った。 ・1型糖尿病におけるSGLT2阻害薬の腎保護効果を予測するモデルの開発 研究代表者:広中順也京都府立医科大学大学院医学研究科大学院生 助成額:100万円(「ゲノムファンド活用プログラム2022」助成活用) ・焼き肉、中華料理、ピザを安心して食べられるインスリン調整法の確立 研究代表者:柚山賀彦大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学後期研究医 助成額:100万円(「由地敏廣エンジョイ!基金」活用) ・化学的誘導型オルガノイドによる1型糖尿病治療 研究代表者:宮本大輔長崎大学大学院移植・消化器外科助教 助成額:400万円(「ゲノムファンド活用プログラム2022」助成活用) ・リプログラミング化技術を応用した膵島移植におけるマテリアルリサイクル技術の確立 研究代表者:今村一歩長崎大学大学院移植・消化器外科学助教 助成額:96万円(「ゲノムファンド活用プログラム2022」助成活用) ・キネシンによってシャペロン蛋白の局在を整える新しい抗糖尿病戦略の開発 研究代表者:田中庸介東京大学大学院医学系研究科細胞構築学教室講師 助成額:100万円(「ゲノムファンド活用プログラム2022」助成活用)	5月16日 5月19日 5月23日	安城市 佐賀市 ほか	5人	60万人	

2 事業実施に関する事 項

(1)特定非営利活動に 係る事 業

事 業名	事 業 内 容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム					患者及びその家族等	825
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム	○サイエンスフォーラム2023ー根治に 向けてのカウントダウン3ーを開催した。 【第1部】 ・新たな研 実助成テーマの紹介 ・「膵β細 胞再生 移植ではない治療法～」ー1型糖尿病研究基金助成プロジェクトー ・「バイオ 人 膵島 移植の実現に向けて」ー1型糖尿 病研究基金助成プロジェクトー ・パネルデ ィスッカション「インスリン」が必要な病気について知ろう！ ・日本I DDM ネットワークの活 動紹介 ・「iPS細胞 による1型糖尿病根治」 ー1型糖尿病研究基金助成プロジェクトー ・感謝のセレモニー ・展示ブースツアー 【第2部】 参加者交 流会(研究者、医師等と患者・家族との交流) ・テーマ 1「バイオ人工膵島移植の実現に向けて」 ・テーマ2 「膵β細胞再生～移植ではない 治療法～」 ・テーマ 3「iPS細胞による1 型糖尿病根治」 ・テーマ 4「マルコさんと2型糖尿病の話」 ・テーマ5 「理事 長話そう」 ・テーマ 6「エンディングノート"もしもノート"を書こう」 ・テーマ 7「#に ちあいしゃべり場」(テーマ設定なし)	6月25日	大阪市	15人	133人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報					患者及びその家族等	23,949
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病「 治らない」から「 治る」ー "不可能を可能に する"ーを応援する100人委 員会委 員が40人となった。 ＜100人委 員会の役割＞ ・不可能を可能に するこの取り組みを社会に 発信" する。 ・不可能を可能に するこの取り組みの"戦略に助言"する。 ・ 不可能を可能に するこの取り組みに"参加"し患者と家族に 勇気を与える	通年	安城市 佐賀市 ほか	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病「 治らない」から「 治る」ー "不可能を可能に する"ーを応援する希望の100社委 員会委 員は23企 業・ 団体となった。各社・ 団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表 明が寄せられている。	通年	佐賀市 ほか	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○公益財団法 人パブリックリソース財団のご協 力により オンライン寄付サイト「 GiveOne(ギブワン)」で「 不治の病"1型糖尿病"の子どもたちを助けたい ！ 根絶のための研究にご支援をお願いします 」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	熊本市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ヤ フー株式会社のご協 力により「 Yahoo!ネット募金」で、バイオ人工 膵島移植研究に 向けて「マクロカプセル化膵島」開 発を支援するため「 年間1,600回の注射を打ち続けなくてはならない"不治の病"の子どもたちに"治る"希望を」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	福岡市 佐賀市 熊本市	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただいた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼 有明海産海苔)、1型糖尿病根絶の取り組みに 共感頂いた佐賀の生産・加工 業の方々によるこだわりの品(農産物 伝統工 芸品等)をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 武雄市 鹿島市 小城市 嬉野市 神埼市 上峰町 みやき町 有田町 白石町 太良町	11人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「READYFOR継続寄付」を活用し「バイオ人工 膵島移植」研究助成のため、継続的に 毎月支援いただく「 移植サポータ ー」を募集したところ、当サポ ータ ーが 人となった。	通年	佐賀市 大津町 ほか	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本承継寄付協会の遺贈寄付情報発信メディア「えんギフト2 022」等で、1型糖尿病根絶に 向けた支援を呼びかけた。	通年	横浜市 佐賀市	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1 型糖 尿病の啓発に繋がる「希望の募金箱」を作製し、店舗やイベント出展場所等14か所(累計:24か所)に 設置いただいた。	通年	全国各地	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協 働し佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、バイオ人工 膵島移植による1型糖尿病根治を目指す研究への支援を呼びかけた。 目標:25, 000, 000円 実績:26, 614, 642円 810人からの支援申込あり	6月1日～11月30日	船橋市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協 働し佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、「移植ではない 治療法」の確立を目 指す研究への支援を呼びかけた。 目標:22, 000, 000円 実績:24, 905, 359円 573人からの支援申込あり	11月1日～1月29日	佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、iPS細胞による1型糖尿病根治を目指す研究への支援を呼びかけた。 目標:24, 000, 000円	2月1日～9月30日	福岡市 佐賀市 ほか	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ウイルス糖尿病予防ワクチン開発」のために、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による佐賀大学への研究助成金１７００万円の贈呈式を開催し、佐賀新聞、薬事日報で紹介された。	7月25日	佐賀市 ほか	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「人工 知能による1型糖尿病療養」のために、循環型研究資金による京都府立医科大学への研究資金100万円 (3年継続) の贈呈式を開催した。	10月31日	京都市 ほか	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「 ブタ 膵島用いたバイオ人工 膵島臨床実用に 向けた前臨床試験」のために、「金岩信一基金」による国立国際医療研究センター への研究助成金３８５０万円の贈呈式を開催した。	11月25日	東京都 ほか	7人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金（特別会計）広報	○「バイオ人工膵島移植」のために、佐賀県 庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による国立国際医療研究センター及び神戸大学への研究助成　金３５０万円の贈呈式を開催し、神戸新聞、佐賀新聞、科学新聞で紹介された。	2月1日	東京都 神戸市 ほか	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金（特別会計）広報	○「からだの中に残された膵β細胞量を増大させ1型糖尿病を“治す”研究」のために、佐賀県 庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税による群馬大学への研究助成　金４００万円の贈呈式を開催し、群馬テレビ、上毛新聞で紹介された。	3月7日	前橋市 ほか	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○社会課題メディ　アgooddo遺贈寄付サイトに掲載し、1型糖尿病根絶に向けた支援を呼びかけた。	7月～4月	横浜市 佐賀市 ほか	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　別会計）広報	○週刊新潮の終活特集で『1型糖尿病を「治る」病気に』と題して支援を呼びかけた。	8月4日	横浜市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○日本経済新聞の「遺贈寄付で次世代のための社会貢献」特集で「遺産寄付で”不治の病”１型糖尿病を”治る病”に」と題して支援を呼びかけた。	8月22日 8月25日 8月29日	横浜市 佐賀市 ほか	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○週刊新潮に『ふるさと納税で「１型糖尿病」を治る病気にするための支援を』と題して掲載された。	9月15日	横浜市 佐賀市	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○遺贈寄付ウィーク2022「オ　ンライン遺贈寄付セミナー」で日本IDDMネットワークの活動を紹介し、インスリ　ン補充をしている方のための「エ　ンディ　ンダメ(もしものノート)」書き方講座も実施した。	9月17日	横浜市 大津町	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○横須賀輝尚氏(「会社を救うプロ士業 会社を潰すダメ士業」著者)主催のチャリティイベント「ふるさと納税から始める”寄付”経営-1型糖尿病支援-」に大村詠一専務理事が出演し、支援を呼びかけた。	11月14日	大津町 ほか	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　別会計）広報	○富裕層向け媒体「AFFLUENT(　アフルエ　ント)ふるさと納税で難病の子どもを救えることをご存じですか？」と題して支援を呼びかけた。	11-12月	福岡市 佐賀市 ほか	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○AFFLUENT(アフルエ　ント)のCLOSEUP　(WEBページ)に「ふるさと納税で救える子どもの命　1型糖尿病の研究支援｜日本IDDMネットワーク」と題して掲載された。	11-12月	福岡市 佐賀市	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○8年目となる全国的な寄付啓発キャ　ンペーン『寄月間～Gi　vipDecember～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の”根絶”を目指し歳末寄付を会員ほか　関者へお願いした。	12月	佐賀市 ほか	8人	60万人	
1型糖尿病研究基金（特別会計）広報	○週刊文春に「ふるさと納税を通じ難病患者を支援できる取組が開始」と題して掲載された。	12月15日	横浜市 佐賀市	2人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　別会計）広報	○週刊文春WOMANの遺贈・寄付特集で「毎日注射が必要になった息子に”治るよ”と言える未来を」と題して支援を呼びかけた。	12月22日	船橋市 横浜市 佐賀市 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　別会計）広報	○バレンタインデーとホワイトデーに合わせて「ドクターズチョコレート」(販売元:株式会社マザーレ　ンカ)の売上の1%を1型糖尿病研究基金へ寄付するキャ　ンペーンを大賀薬局（102店舗）阪神調剤グループ・I&H株式会社（123店舗）及びアポクリート株式会社（33店舗）のご協力により実施した。	2月13日 ～ 3月31日	全国各地	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）	○大阪マ　ラソン2023～OSAKA MARATH　　2023～(　第11回大阪マ　ラソ)にチャリティパートナーとして参加し、12名のチャ　リティ　ランナが寄付を呼びかけられた。	2月26日	大阪市	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○マ　ンスリーサポーター100名募集キャ　ンペーンを行ったところ、62名の申し込みにつながった。	3月27日 ～ 5月8日	横浜市 福岡市 熊本市	8人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○司法書士法人チェスターと協働で遺贈寄付パンフレットを作成し、1型糖尿病をはじめとして難病全般に対する支援を呼びかけた。	3月～	佐賀市 ほか	3人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○らくらくコミュニティ(　国内最大級のシニアSNS)型糖尿病根絶に向けた支援を呼びかけた。	4月～	佐賀市 ほか	5人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○2005年にスタートした1型糖尿病研究基金のノウハウを難病全般にしゅすため「難病研究支援基金」を創設した。	4月	佐賀市	1人	60万人	
1型糖尿病研究基金（　特別会計）広報	○佐賀県 ホームページ「協働の事例集～自発の地域づくりさがを目指して～」で日本IDDMネットワークのふるさと納税の取り組みが掲載された。	5月23日～	佐賀市 ほか	2人	60万人	

2 事業実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)	<主な寄付金収入実績>					
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○毎月定額(1口1,000円)で当研究基金のサポートをいただくノーモア注射マンスリーサポーターから寄付を頂戴した。 サポーター数:680名で1,586口 寄付金額:18,177,155円	通年	全国各地	11人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(株)伊藤園、サントリービバレッジソリューション(株)(株)ベネフレックス、FVジャパン(株)、(株)TGサポート、(特非)ジャパン・カインドネス協会及び難病・慢性疾患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:66台 寄付金額:1,467,968円	通年	仙台市 つくば市 下野市 上里町 千葉市 柏市 市原市 東京都 新潟市 三条市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 浜松市 一宮市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 神戸市 三木市 岡山市 福山市 今治市 佐賀市 肝付町	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○(株)バリューブックスのご協力で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーモア注射~希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:3,974冊 寄付金額:157,533円	通年	全国各地	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○TMコミュニケーションサービス株式会社のご協力で、不用品の買取価格に10%が加えられた金額をいただく「お宝エイド」により寄付を頂戴した。 寄付金額:191,707円(書き損じハガキプロジェクト分を含む)	通年	全国各地	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○ヤフー株式会社のご協力で、「Yahoo!ネット募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:856,106円	通年	全国各地	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○ソフトバンク株式会社のご協力で、スマートフォン等から寄付できる「つながる募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:552,123円	通年	全国各地	7人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○大阪マラソン2023~OSAKA MARATHON2023~(第11回大阪マラソン)のチャリティパートナーに選ばれ、チャリティランナーによる寄付、チャリティランナーがファンドレイザーとして呼びかけていただいた寄付一般ランナーのエントリー時の寄付、チャリティグッズの売上等による寄付を頂戴した。 寄付総額:2,838,404円	通年	全国各地	4人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○1型糖尿病患者である故林文子様は生前、折りにふれて電話や手紙で日本IDDMネットワークに連絡をくださり、施設で自己注射ができなくなったときの不安(施設を退去しないといけない)や1型糖尿病根絶への希望を語られていました。故人のご遺志を継ぎ、1型糖尿病根絶に向けた研究への助成、高齢患者支援サービスの構築や介護職員によるインスリン注射の合法化の政策要望等の活動費として、いただいたご寄付で「林文子基金」(53,274,919円)を設立した。	11月7日	安城市 佐賀市 ほか	6人	60万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○『先日他界した父は、1型糖尿病を専門とする小児科医でした。父が主治医として長く治療してきた1型糖尿病の患者様のお一人が、数年前にがんで亡くなる際に、「身寄りがないため1型糖尿病の方のために使ってほしい」と父に残した遺産を、本基金として寄付させていただきます。患者様そしてご家族の皆さまに、少しでも明るい未来が来ますように、研究にお役立てください。』としていただいたご寄付で「武居正郎基金」(2000万円)を設立した。	1月24日	佐賀市 大津町 ほか	4人	60万人	

(2)その他の事業 該当なし

(3)その他

○総 会:

通常総会を2022年8月20日名古屋市で開催

臨時総会を2023年2月4日佐賀市で開催(理事の増員、共同代表制の導入)

○理事会:

第38回理事会を2022年8月15日(通常総会に付議する事項、特定資産の創設)佐賀市で開催

第39回理事会を2022年11月5日(正職員就業規則の改正、育児・介護休業規程の改正)佐賀市で開催

第40回理事会を2023年1月15日(臨時総会に付議する事項、役員報酬規程の改正、事務局体制の見直し、事務局長の任命、正職員就業規則の改正、旅費規程の改正)佐賀市で開催

第41回理事会を2023年4月5日(職員への対応、難病研究支援基金の創設、就業規則の改正)佐賀市で開催

第42回理事会を2023年6月23日(日本非営利組織評価センターへの対応、臨時総会の開催、資産運用・同規程の制定、通常総会に付議する事項、2024年度から会費等の値上げ、役員報酬規程の改正、会計処理規程の改正、井上龍夫理事長の次期年俸)佐賀市で開催